

	日付	時間帯		講師名	所属	テーマ	概要
1	2024/4/5	8:50-10:20	公	川崎 良	大阪大学／公衆衛生学教授	公衆衛生学概論－社会と医学の接点－	
2		10:40-12:10	公	中谷 比呂樹	慶應義塾大学訪問教授	グローバルヘルス概論	世界では、地球規模の健康問題が、同時多発的に生じており、地政学的変化も相まって、グローバルヘルスも大きな変革期にある。折から今年には日本にとってG7主催国でもあり、分断化された世界を健康を介してより良いものとするための我が国の力量が問われる。そこで、この講義では、(1) グローバルヘルスのイマ、(2) 我が国にとってグローバルヘルスに関する意義、(3) 21世紀半ばで活躍する日本の医学生生国際分野でのキャリアアップ について分かりやすく解説する。講義をとおして、我が国の公衆衛生の世界的な位置付けと貢献の可能性について論ずる。
3	2024/4/12	8:50-10:20	環	喜多村 祐里	大阪市こころの健康センター所長	おおさかの地域精神保健医療福祉	精神保健福祉法をはじめとする精神障害者に関する法改正に伴い、地方行政の裁量権は増すと考えられる反面、自治体の負担は増大する。一方、感染症のパンデミックや大規模な自然災害、海外紛争など、社会経済の影響を受けて広がる生活格差への対応が遅れており、これまで減少傾向だった自殺死亡率も再び増加に転じた。ここでは、行政に課せられた役割と課題解決に向けた取組みを概説し、学生諸君の意見を問うてみたい。医師の視点に加えて人権擁護の観点から、精神障害者に対する司法介入の現状、精神疾患に対するさまざまな偏見、患者にとって回復（リハビリ）とは何か？について考えながら理解を深める。
4		10:40-12:10	環	小笹 晃太郎		放射線の健康影響の疫学	広島・長崎の原爆放射線による長期の健康影響は、1950年を起点とする被曝者のコホート調査によって、白血病および固形がんのリスクが長期にわたって増加することが明らかにされ、がん以外の疾患との関連も検討されている。また、胎内被曝者、被曝二世の追跡も行われている。本講義ではこれらの疫学調査について、対象集団の設定、対象者個人の放射線被曝量の推定、および結果指標の収集とリスク評価の方法、並びに現時点での結果の概要について説明する。
5	2024/4/19	8:50-10:20	公	岡村 智教	慶應義塾大学／公衆衛生学教授	わが国の生活習慣病予防対策の歩みと国民健康づくり運動（健康日本21）	わが国の生活習慣病予防対策が全国的に開始されたのは1982年の老人保健法の制定以降である。その流れを受けて21世紀から厚生労働省は国民の健康づくり運動として健康日本21を推進しており、循環器疾患の予防については、生活習慣の歪み→危険因子の増悪→疾患の発症という三層構造を想定してこの因果関係の根拠として疫学研究の成果が用いられた。また2008年から特定健診制度も開始されたが、これまでに3回の改訂が行われ、今年度から第4期として実施されている。循環器病の疫学治療と施策がどのように関連づけられているかを紹介する。これらは疫学研究の行政施策への応用事例である
6		10:40-12:10	公	石山 満夫	千里津雲台訪問看護ステーション 所長	地域リハビリテーションの現状と課題	治らない疾患を患う、または障害を負ったとしても、介護の重度化の予防には医師の役割が欠かせないものである。具体的には、作業療法士等リハビリ専門職との連携、廃用症候群の予防、自立支援、多職種理解、介護保険制度などについて深めたい。
7	2024/4/26	8:50-10:20	環	島 正之	兵庫医科大学／看護学部特命教授	大気汚染による健康影響：歴史の変遷と今後の課題	大気汚染物質は人の健康に様々な影響を及ぼすことが知られており、世界保健機構(WHO)は世界で年間700万人の死亡と関連があると述べている。わが国では、かつて工場等に起因する深刻な大気汚染を経験し、自動車排出ガスによる健康影響も問題となったが、近年は改善がみられている。一方、中国、インドをはじめとする新興国における大気汚染は深刻な状況が続いている。2020年以降はCOVID-19対策としての行動制限等による改善がみられた一方で、気候変動の影響によって大気中オゾン濃度が増加するなど、地球規模の課題となっている。こうした大気汚染の健康影響を明らかにするために行われた疫学研究を紹介し、今後の課題についても述べる。
8		10:40-12:10	環	伊藤 ゆり	大阪医科薬科大学／医学研究支援センター 医療統計室 室長・准教授	がんの疫学：予防・検診・医療・共生	がんは日本において死因の第一位であり、長期にわたりがん対策に取り組んでいる。がん対策は予防・検診・医療・共生の各分野の多岐にわたる。がん死亡の減少、がん患者・家族のQOLの維持・向上を目指し、取り組まれている。本講義ではがん対策における各分野において、がん疫学の視点からモニタリングや介入の優先順位付けなどについて、国内外の取り組みについて紹介し、疫学研究と疾病対策の関わりについて学ぶ機会としたい。
9	2024/5/10	8:50-10:20	公	谷川 武	順天堂大学／公衆衛生学教授	東日本大震災直後の東京電力福島第一・二原子力発電所における産業保健活動について	2011年3月の東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故は、現場で事故収束にあたる発電所社員に相当な精神的、肉体的負担を強いた。現場に応援に行った際、震災後1か月以上経っていたにもかかわらず住環境、食事という基本的な生活環境の整備が遅れていた。事故約1ヶ月後に実施した質問紙調査の結果から、発電所所員の心理的苦悩やPTSD症状を悪化させる要因を明らかにし、その対策を講じた。
10		10:40-12:10	公	馬場 幸子	大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 母子保健調査室 室長	母子保健	母子保健事業や関連する様々な関連要因について、その概要を解説する。
11	2024/5/17	8:50-10:20	公	森島 敏隆	大阪国際がんセンター／がん対策センター政策情報部 部長補佐	医療計画：医療提供体制の最適化のための政策	病気が怪我で医療を受ける場面を想像してください。近所で受診できる？大病なら？一刻を争う大怪我なら？コロナなら？深夜なら？離島なら？全国津々浦々にどんな病気・怪我でも24時間365日すぐに的確な治療をしてくれる大病院ばかりがあればよいのに。けど、風邪の患者が大病院に殺到したら、大病院の医師は風邪の診療で忙殺されて手術執刀等の経験を積めないのでは？風邪の診療ばかりで病院が稼げなければ医師は高給をもらえないのでは？これでは医師の不満がたまりそうです。求められる役割を過不足なく果たす医療機関を適切に全国に配置して、医療機関間の役割分担と患者紹介を促す政策を考えましょう。
12		10:40-12:10	公	北村 明彦	八尾市保健所所長／健康まちづくり科学センター 総長	保健所が取り組む公衆衛生の今日的な課題と実践	日本人の寿命が戦後大きく延びて世界のトップレベルに達した主な要因として、国民皆保険制度、結核等感染症対策、脳卒中予防対策、減塩や健康な食生活の普及、禁煙対策や健康づくり対策等のわが国の公衆衛生サービスの果たした役割は大きい。しかしながら、急速な少子高齢社会の進行、健康格差の拡大、さらにCOVID19のパンデミックや大規模災害の頻発等、昨今の課題への対応が切に求められている。地域の公衆衛生の第一線機関である保健所が担う今日的な健康課題解決のための取り組みの実践について解説する。
13	2024/5/24	8:50-10:20	公	村木 功	大阪大学／公衆衛生学准教授	“クセ”に合わせた公衆衛生戦略	人の行動には様々な“クセ”により不合理な行動を取ってしまうことが知られている。その“クセ”を理解して、どのように公衆衛生施策の展開ができるのか、必要かについて、概要を解説する。
14		10:40-12:10	公	平山 照美	大阪府こころの健康総合センター	依存症の基礎知識	アルコールや薬物（違法薬物、処方薬、市販薬等）、ギャンブルやゲームなどの「依存症（アディクション）」は、様々な害が生じていてもその使用がコントロールできなくなる疾患であり、周囲の人や社会に対する影響も大きい。その対策については課題も多い。依存症とその背景、回復などについて概説し、行政（大阪府）における依存症対策の取組みの一部を紹介する。
15	2024/5/31	8:50-10:20	環	祖父江 友孝	大阪大学／環境医学教授	疫学の基本概念①	
16		10:40-12:10	環	祖父江 友孝	大阪大学／環境医学教授	疫学の基本概念②	疫学は、人間を対象として研究を実施する際の必須の方法論である。本講義では、因果関係の考え方（確率論と決定論の違い）、疾病頻度の指標（率と割合の違いなど）、曝露の指標（遺伝要因と環境要因など）、関連の指標（比と差など）について説明した上で、真の関連と見かけ上の関連（偶然、バイアス、交絡と交互作用）、因果関係の判断基準（一致、関連の大きさ、生物学的メカニズム）、研究デザイン（実験的研究、観察的研究、コホート研究、ケースコントロール研究、地域相関研究、横断研究、記述疫学）などについて、概説する。
17	2024/6/7	8:50-10:20	環	祖父江 友孝	大阪大学／環境医学教授	疫学の基本概念③	
18		10:40-12:10	環	祖父江 友孝	大阪大学／環境医学教授	がん対策	2006年にがん対策基本法が成立し、わが国においても、がん対策を総合的かつ計画的に推進する方向性が示された。がん対策推進基本計画の全体目標として、「がん死亡の減少」「患者・家族の苦痛軽減と療養生活の質の維持向上」などが掲げられ、「がん医療」など9分野について個別目標が設定されている。本講義では、がん対策全般についての基本的な考え方とともに、がん統計、がん予防、がん検診を中心に、最近の動向を概説する。

19	2024/6/14	8:50-10:20	環	安村 誠司	福島県立医科大学県民健康管理センターセンター長・教授	高齢者保健：超高齢社会・高齢者の実像とその対応	日本は、戦後一貫して、平均寿命は伸長し、世界中でもっとも長寿の国の一つとなっている。このことは高齢者が元気で長生きできることを意味し、喜ばしいことである。一方、類を見ない速さでの高齢化、つまり、子どもが増えない中で高齢者の人口割合の増加により、超高齢社会となった。要医療、要介護の高齢者が多くなり、若者にとって負担が増大する、との偏ったイメージがあるが、その実像を適切に理解することが必要である。併せて、高齢者の身体的、心理精神的、社会的な状態の正しく理解が求められる。高齢者への保健・医療・福祉施策についても概説する。
20		10:40-12:10	環	山本 仁	大阪大学／安全衛生管理部 教授	作業環境管理と作業環境測定	危険物や有害物を取り扱う作業場で働く作業員の健康を守るためには、作業を行う環境そのものを管理し、作業員の曝露を未然に防ぐ手立てが必須となる。本講義では、予防安全のために根幹となる作業環境管理の考え方と作業環境測定の実際について解説する。
21	2024/6/21	8:50-10:20	公	野田 博之	厚生労働省／健康・生活衛生局難病対策課 移植医療対策推進室長	感染症対策概論	公衆衛生政策では、科学的な検討の結果を踏まえ、規制と啓発を中心とした施策が進められることになるが、特に、感染症対策では、規制に基づいた施策が数多く用意されている。国内法としては感染症法や検疫法が、国際法としても国際保健規則が存在し、国内外で一定程度の規制に基づいた感染症対策が行われている。本講義では、特に公衆衛生政策における規制の役割について焦点を当てつつ、日本における感染症対策について概説する。
22		10:40-12:10	公	野口 緑	大阪大学／公衆衛生学 特任准教授	行政施策の展開と保健指導介入による効果評価	現在、日本人の約半数が日常生活において何らかのストレスや悩みを抱えている。本講義では、日本人において重要な死因である悪性新生物、心疾患、脳血管障害を中心に心理的ストレスと疾病との関連について、そのメカニズム面を含めて詳述する。また、ストレス関連疾患の予防のために、効果的なストレス解消法、生活習慣、そして近年注目されている笑いの効果について講義する。
23	2024/7/5	8:50-10:20	環	竹下 達也		アルコールと健康～個別化健康増進へ向けて～	飲酒は、Global Burden of Disease 2010においてDALYs（傷害調整生存年数）への寄与の大きい要因として、高血圧、喫煙（受動喫煙を含む）に次いで第3位と報告されており、重要な課題である。アジア人は2つのアルコール代謝酵素の遺伝子型により飲酒行動、健康度ともに大きな影響を受けている。遺伝子-環境相互作用の重要なモデルを提供するとともに「個の健康増進」の良いモデルでもある。遺伝子情報を社会的にどのように利用していけばよいか倫理的課題を含めて考えてみたい。
24		10:40-12:10	環	福島 若葉	大阪公立大学／公衆衛生学教授	感染症とVPD（vaccine preventable diseases）	近年の生活環境の改善により、わが国では感染症が死因順位の上位として挙げられることは少なくなったものの、感染症は依然として公衆衛生上の重要な位置を占めている。本講義では、感染症の疫学と予防について、感染症法とのかかわりを含めて説明する。また、感染症のうち、ワクチンで予防可能な疾患（VPD, vaccine preventable diseases）について、わが国における施策の現状と、有効性や安全性の概念を学ぶ。
25	2024/7/12	8:50-10:20	公	白井 ころこ	大阪大学／公衆衛生学 特任准教授	健康の社会的決定要因（Social Determinants of Health）	健康の社会的決定要因の考え方について概説し、社会疫学の基礎的知識を学ぶ。個人や集団の特性に合わせたヘルスプロモーション、制度としての健康格差対策について受講者と共に考えたい。
26		10:40-12:10	環	北村 哲久		臨床疫学の基礎	